

「ニューズ専修」

毎月1回15日発行
発行所
専修大学広報課
☎101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

- ② 20年度科研費77件採択 新規は28件……
- ③ 藤田愛さん(経営2) オンラインで鳥根愛語る……
- ④ 今春卒業の就職希望者就職率96・8%……
- ⑤ スポーツ研 ストレス状況調査とリラクゼクス法公開……
- ⑥ 元留学生コーチ氏、イタリアの文学翻訳賞受賞……
- ⑦ 「石巻専修大学」実験など一部科目で対面授業再開……



お知らせ

「ニューズ専修」の次回発行は
9月号(9月15日発行)です
最新情報は大学ホームページ、公式Twitter、Facebook(フ)を確認ください。



食とコミュニティ活性化を研究

商・渡辺達朗教授 東京都と共同事業

商学部・渡辺達朗教授の食とコミュニティ活性化に関する研究が、本年度の東京都と大学の共同事業に採択された。「専客万来―孤食から救食へ―」と題した研究では、オンラインでロス削減と、コミュニティ再生に取り組む。新型コロナウイルス感染症への対応として不要不急の外出や「3密」を避けるため、学生や高齢者世代など多くの人が交流機会を失い、コミュニティのプラットフォーラムを開発し、実際に稼働させる予定。渡辺教授の

「余剰食材の提供など、食品ロス削減に向けた新たな動きが萌芽している。研究事業ではこうした課題の解決に向け、新たなオンライン・コミュニティのプラットフォームを構築し、実際に稼働させる予定。渡辺教授の

「エア・アプリの活用、産地との連携という三つのチームに分かれて、食の問題に取り組んでいる。今後、学生が主体となって具体策を提案、感染状況をしながらイベントなどを行う予定だ。東京都と大学の共同事業は、SDGsの推進と

(3面に関連記事)

豪雨で被災された皆様へ

被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。専修大学は、被災された学生と保護者の方に対して、安心して学業が継続できるよう支援を行っております。下記の担当窓口にご相談ください。

- 【一部学生】生田学生生活課 ☎044-911-1267
神田学生生活課 ☎03-3265-6824
- 【二部学生】二部事務課 ☎03-3265-8359
- 【大学院生】生田大学院事務課 ☎044-911-1271
神田大学院事務課 ☎03-3265-6568
- 【法科大学院生】法科大学院事務課 ☎03-3265-6891



お天気キャスターとして活躍する小林正寿さん(平23文)＝6面「校友を訪ねて」



Zoomを介して意見を交わす両大学の学生

文・板坂ゼミ 韓国・大田大学とネット授業 現代の若者文化を日韓で比較

文学部日本文学文化学科の板坂則子ゼミ(近世

の文学・文化)では10年以上前から授業にITを導入。海外の大学と専修大学をインターネットで結んで行う遠隔授業や共同授業を通じて、学生たちの国際性やコミュニケーション能力を高めてきた。6月30日にはウェブ会議システムのZoomを使い、韓国・大田大学(大田広域市)で日本語と日本文学を教える関内勲教授(平13院文博)の教室と共同授業を開催。現代の若者文化について相互に発表した。

大田大学との共同授業は3年ぶり。今年は板坂ゼミ生47人と大田大学生24人が参加。板坂ゼミでは情報処理技術の習得を

到達目標の一つに掲げており、授業で使用するIT機器の操作も学生が担当した。

大田大学の学生たちは音声付きパワーポイント動画を使って、「漫画」「国際恋愛」について日本語で発表を行った。質疑応答では板坂ゼミ生から質問が相次ぎ、踏み込んだ意見交換を通じて、韓国の学生が日本文化をどのように捉えているのかについて理解を深めた。

板坂ゼミの発表テーマは「アニメ」「お菓子」「K-POP」「ゲーム」など多岐にわたった。自身も韓国のコスプレを愛用しているという渡

「国際恋愛」をテーマにした大田大学生の発表



邊紗彩さん(文3)らのグループがテーマに選んだのは「韓国から日本にきた流行」。発表では過去の韓国ブームを振り返るとともに、「現在の第三次韓国ブームの背景には『SNS映え』がある」と指摘。そのため「若者を中心に人気が出ている」と論じた。

日本人とアイスクリームの関係性について発表した棟方亮介さん(文3)は、共同授業への参加は3回目。「今年はコロナ禍の影響で大学の図書館が使えず準備に苦労したが、機器の操作も含めて発表はうまくいったので良かった」

と振り返った。一方、桑村さくらさん(文2)は「Zoomを介して直接交流ができたことで、日本に興味を持つ韓国の学生がたくさんいることを知ることができた」と、共同授業の成果を語った。

関内教授が「楽しかったので時間が短く感じられた」と授業の感想を述べた。日本と韓国は互いに「隣国である」という意識を持つことが大事。相互理解を通じて、未来を明るくしていくべきだと総括。最後は参加者全員で日本語と韓国語で「さようなら」のあいさつを交わし、笑顔で授業を締めくくった。

校歌で専大生にエール 全学応援団 動画を作成

全学応援団 動画を作成



オンライン授業が続く中、全学応援団が専修大学校歌の動画11写真1を作成した。渡辺理沙団長(文4)は「スポーツも授業も、まだみんなで顔を合わせる事ができないが、校歌を聴いて前向きな気持ちで未来を見つめてほしい」と話す。

動画では、全学応援団のリーダー部、チアリーダー部、吹奏楽部の部員21人がユニホーム姿で力強く右手を振り、校歌を歌う。最後には「フレイフレー専修とエールを送った。それぞれの自宅で撮影し、遠藤汐莉さん(経済2)が編集した。日本全国を応援するつもりで腕を振ったという渡辺団長。「入学式が中止となり校歌を聴く機会がなかった1年次生にぜひ聴いてほしい。力強い歌詞には励まされることもあると思う」と話している。大学HPから視聴できる。